

平成 21 年度 異業種交流ミーティング実施要綱

1 目的

県の若手職員が、民間企業の若手中堅社員と自由に意見交換を行うことにより、民間の仕事に取り組む視点やチャレンジすることを学び、今後の能力開発、職務意欲の涵養に資するものとする。

2 対象者

採用 5 年目の総合行政職及び土木・建築職の職員

3 講師

県外民間企業の若手中堅社員の方々 3 名

- 東京急行電鉄株式会社 (Aグループ)
開発事業本部事業統括部 コンサルティング部コンシェルジュ担当課長 平江 良成
- 前田建設工業株式会社 (Bグループ)
総合企画部 経営企画グループ マネージャー 上田 康浩
- 楽天株式会社 (Cグループ)
楽天市場事業 編成部 副部長 小磯 敦

4 日程及び場所

日 時	研 修 内 容	場 所	
10月30日 (金)	13:10～13:25	受 付	北日本スクエア ・ 職員研修所 401・402研修室 ・ 7階 703会議室
	13:30～13:45	開講式、オリエンテーション	
	13:45～15:30	講 演 ◎共通テーマ「地域経済活性化」 ※ 講師 3 名が順次講演	
	15:45～16:50	グループ討議 (3 班) 〔 本県の活性化方策について、 グループ討議・提言取りまとめ 〕	
	17:00～17:30	合同発表会 〔 グループ討議結果・提言の発表 〕	
18:00～20:00	交流会 (合同)	県民会館 8 階 キャッスル	

5 その他

- (1) 名札(ICカード)及び筆記用具を携行願います。
- (2) 事前に配布した「とやまの姿」を持参願います。
- (3) 研修旅費は、各所属において支給願います。
- (4) 交流会の会費は、本人負担です。

異業種交流ミーティング／講演テーマと要旨について

A班

1. 東京急行電鉄株式会社 開発事業本部 事業統括部 コンサルティング部
 コンシェルジュ担当課長 平江 良成 氏

講演テーマ	東急電鉄の地域連携と沿線活性化の取り組みについて
要 旨	<p>① 東急電鉄の会社概要 会社概要、事業展開の歴史、まちづくり、大規模開発プロジェクト等の紹介</p> <p>② 東急線沿線の環境 沿線の人口の動き、各エリアの特徴、所得水準等沿線の環境に関する説明</p> <p>③ 地域連携の取組み 沿線地域の「認知度向上」「魅力アップ」「集客力強化」「街の利便性の向上」「活気ある街の実現」等を目的に、沿線地域における様々な活動主体と目的を共有し、「連携・協働」している地域連携の実例の紹介</p> <p>④ 地域活性化の取組み 沿線住民の高齢化・住宅の老朽化の進行を背景に、沿線における住まいに関する潜在ニーズを掘り起こし、沿線住宅関連市場を活性化させることで、多くの人にとって「住みたい」「住み続けたい」沿線であり続けるとともに、沿線のさらなる価値向上を目指し、「住まいと暮らしのコンシェルジュ」事業を展開</p> <p>【主な論点】</p> <p>① 地域との協働体制構築および協働による仕掛けづくり</p> <p>② 住まいに注目した地域活性化策</p>

B班

2. 前田建設工業株式会社 総合企画部 経営企画グループ
 マネージャー 上田 康浩 氏

講演テーマ	ファンタジー営業部からみた地域活性化
要 旨	<p>① 前田建設の外部ホームページ企画の「ファンタジー営業部」の概要・設立の趣旨・経緯の他、当該活動から得られたものなどを紹介し、仕事に対するモチベーションについて考察する。</p> <p>② ファンタジー営業部的な観点から、地域経済の活性化についていくつかのアイデアを紹介し、意見交換を行う。</p> <p>【講演項目】</p> <p>1. ファンタジー営業部とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジー営業部とは ・実現までの道のり ・内容紹介 ・反響と得られたもの <p>2. ファンタジー営業部から見た地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジー営業部としての新たな取り組み ・地域活性化のアイデア <p>【参考】</p> <p>前田建設ファンタジー営業部 (http://www.maeda.co.jp/fantasy)</p>

C班

3. 楽天株式会社 楽天市場事業 編成部

副部長 小磯 敦 氏

講演テーマ	楽天市場「まち楽」を利用した富山経済の活性化施策
要 旨	<p>① 楽天市場の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業内容の紹介 ・ 楽天グループのビジネス戦略の紹介 ・ 楽天市場の規模感の説明 ・ 楽天市場の機能&コンテンツの説明 <p>② 「まち楽」の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まち楽内容の紹介 ・ 取組み事例の紹介 ・ 今後の展開について説明 <p>【参考】</p> <p>楽天「まち楽」(http://event.rakuten.co.jp/area/?l-id=top_area)</p> <p>※「まち楽」：「楽天市場発 ニッポンを元気にしよう！プロジェクト」として富山県を含む全国 47 都道府県の名産品を紹介するウェブサイトが「まち楽」。楽天のホームページから入ることができる。</p> <p>「各地に伝わる伝統工芸品をはじめ、ご当地グルメやスイーツ&銘菓まで、それぞれの“まち”の魅力を徹底リサーチ！また、県知事やご当地ソムリエによる現地発信の最新情報も♪楽しい情報いっぱいのまち楽の旅が、今始まります！」(まち楽ウェブサイトの説明文より)</p>

平成 21 年度「新撰・政策ワークショップ」実施要領

1. 趣旨・目的

地方分権の推進など大きな変革の時代にあって、平成 20 年 4 月に中核市となった本市に課せられる課題や行政需要は今までになく多様化し高度化している。これらの課題に的確に対処していくためには、市職員が常にアンテナを張り新しい政策に目を向け、議論し、努力・工夫しながら創造力を高めておくことが必要である。

特に、時代の変化に敏感かつ柔軟な思考の若手職員が、所属組織を越えて幅広く自治体の政策について調査・研究し、議論し、提言することにより、自身の政策形成・立案能力の向上を図るとともに庁内の政策論議の活性化に資することを目的に本研修を実施する。

2. 研修対象職員

- ・平成 21 年 4 月 1 日現在、20 歳代及び 30 歳代の一般職員（管理職を除く）とする。
- ・応募および推薦のあった一般職員の中から選考する。

3. 研修概要

- ・受講者は、調査・研究する政策テーマを抽出し、テーマごとに研修チームを編成する。
- ・政策テーマを、先進自治体の視察などを通じて研究し、本市に合った政策として練り直す。
- ・政策テーマに関係する部局職員と受講者全体でフォーラム等を行い、議論を重ねる。
- ・必要に応じて学識者等による助言・指導の機会を設ける。
- ・最終の提言内容を報告書にまとめ、報告会で報告し、広く職員への研究成果の伝達を図る。

4. その他

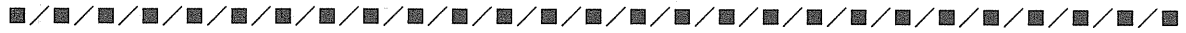
- ・調査に要する旅費などの必要な経費は研修厚生課が負担する。
- ・「ステップアップ研修」の対象者で本研修の受講者には、ステップアップ研修で実施しているポイントを付与する。
- ・庁内各部局は、資料の提供など研修チームの活動に協力するものとする。

5. 施行期日

- ・この要領は、平成 21 年 7 月 1 日から施行する。

先進地を視察し、 新たな政策デザインを

○「新撰・政策ワークショップ」の受講者を募集します○



全国の自治体の先駆的な政策を視察し、視野を広げて、新たな時代の政策をデザインしてみませんか？ 研修厚生課は、「新撰・政策ワークショップ」の受講者を募集します。視察をもとに、関係者や受講者同士の意見交換などを行い、中核市となった西宮市に合った政策を考えます。他の自治体職員の生の声をじっくりと聞き、様々な視点から西宮を見つめ直す機会ともなります。視察の研究テーマやチームは、受講者が話し合って決定します。ぜひ、ご参加ください。なお、「ステップアップ研修」の対象者は、4ポイントの取得となります。



研修概要

1. 対象 平成21年4月1日現在、20歳代・30歳代の一般職員
2. 募集人数 10名程度
3. 研修期間 平成21年8月～平成22年2月の月2日程度（全日または半日）。
・会場 主に水曜日に実施します。会場は原則として本庁舎会議室です。
研修日・会場は研修厚生課で指定します。10月は主に視察を行います。
※ 8月19日（水）に2時間程度オリエンテーションを行います。
4. 研修内容 ①研究テーマ・視察地の選定、チーム編成について、受講者で話し合い、決定します。現在の職務に関連して視察・研究したいもの、自分の興味のあるものなど自由に提案してください。
②9月中旬に調査のポイントを整理、視察先を決定しアポイントを取ります。9月下旬～10月に視察を行います。
③視察後に、テーマに関係する部局の職員や受講者でフォーラム形式の意見交換などを行い、西宮市にあった政策の研究を行います。研究内容を報告書（20ページ程度）にまとめます。
④来年2月（予定）に、報告会を開催します。
5. その他 「ステップアップ研修」受講対象者は、同研修の選択研修として4ポイントの取得となります。

平成21年度能力開発研修

「公共施設のマネジメント」日程表

研修のねらい	公共施設の運営においては、単に施設を維持管理し、場所貸しを中心とした運営ではなく、利用者数の目標を設定し、その達成状況を確認するとともに、収支バランスの最適化を図ることが求められています。この研修では、直営施設だけではなく、指定管理者制度を導入している公共施設を含め、施設マネジメントのあり方を理解し、時代に見合った施設の運営に向けた見直し・改善の視点を学びます。
対象者	県職員・市町村職員等（31人）
講師	杉山 裕美（すぎやま ゆみ） ㈱日本コンサルタントグループ 地域経営研究所研究員 1986年 日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）卒業、㈱ジャスコ、㈱創建を経て、1997年日本コンサルタントグループに入社。 専門は、市町村総合計画、商業、観光、コミュニティ等施設プランニング、診断、運営計画の策定及び指導など、幅広い分野に及びます。

【研修内容】

	9:00	9:30	9:45	12:00	12:45	16:30	17:00
10月8日		受付	オリエンテーション （自治研修所職員）	I 公共施設の課題は何か 1 担当者である私の悩み 2 わが施設が抱える課題とこれまでの取り組み 3 これからの公共施設のあり方 II 施設運営を診断する 1 公共施設の診断視点	昼食 ◇ 休憩	2 事例を活用した公共施設の診断実践 ① 決算書からみる管理運営状況 ② 指定管理者制度導入施設の課題 ③ 管理費抑制方法 III 公共施設におけるマーケティング戦略 1 施設運営におけるマーケティング戦略とは 2 A施設におけるマーケティング戦略を考える ① 調査視点を整理する ② A施設を調査する	
10月9日			③ 目的と提供サービスの関係を読む ④ マーケティング戦略を見極める		⑤ 発表および相互評価 IV 私が抱える課題解決の道筋 1 私・わが施設が抱える課題解決策を考える 2 グループ内発表と相互評価 V 振り返りと総括		

注：A施設とは秋田県立博物館です。また、博物館との関連で秋田県立小泉瀉公園も取り上げます。

科 目	時間数	講 師	会 場
オリエンテーション	0.25	自治研修所職員	特別教室
公共施設のマネジメント	13.25	㈱日本コンサル地域経営研究所 杉 山 裕 美	
計	13.50		

民間企業の経営管理に学ぶ 実施要領

1 目 的

「トヨタ」で行われている業務改善の考え方・手法を理解し、業務を改善する意識を育て、その効率化のための考え方を身につける。

2 受講人数 39人

3 期 間 平成21年12月17日(木)～18日(金) 2日間

4 場 所 石川県自治研修センター(金沢市尾山町10番5号 Tel 076-231-6372)

5 研修内容

	1日目(12月17日・木)	2日目(12月18日・金)
9:00	1 トヨタの経営理念と経営目標 ・豊田綱領、トヨタウェイ ・トヨタ生産方式の考え方 ・経営目標と方針管理 2 トヨタ生産方式と人材育成 ～「マルチスキル化」による人材育成、 その進め方～ ・トヨタ生産方式における人材育成の位置づけ ・マルチスキル化とは ・マルチスキル化がもたらす効果 3 トヨタ生産方式の考え方・手法を学ぶ ・モノづくりは人づくり ・改善でお金に頼ると知恵は出ない 4 「見える化・流れ化」の活用で業務改善 ～その進め方 ・管理の考え方と見える化 ・日常管理と目標管理を見える化で進める ・「見える化」ツールの作り方 ・業務の流れ化による効率化の進め方	5 「5S・ファイリング」の活用で業務改善 ～その進め方 ・5Sの重要性と業務の効率化 ・整理・整頓・清掃の進め方のポイント ・習慣化(躰)の進め方のポイント ・ファイリングの重要性と業務の効率化 ・ファイリング体系や基準の作り方のポイント ・仕掛り文書の管理の仕方 6 トヨタの行動基準を学ぶ 仕事の進め方 人づくりの進め方 ・「常に問題意識」で仕事を常に改善 ・「ナゼを5回」で問題の真の原因を追究 ・「仕事の分解」で問題点の把握 ・「3直3現主義」で行動的な仕事の実施 ・標準化と人材育成、そのリーダーの役割 7 まとめ
17:00		

*講義開始の5分前までに集合してください。

6 講 師

株式会社グローバルネットワーク マネジメントコンサルタント 吉原 靖彦 氏

7 携行品等

名札、筆記用具

8 その他

当センターには駐車スペースがありません。通所の際には公共交通機関をご利用ください。

「明石市役所「カラワリ」大作戦」第一弾 平成 19 年度 明石市職員セミナー ～情熱市長に学ぶ～

1 目的

地方分権が進展し、地方自治体自らが自己決定・自己責任のもと、主体的な地域経営を行っていくことが必要となっている中、依然として厳しい財政状況や本格的な少子高齢社会の到来により、地方自治体は、真に市民が必要とする施策を着実に推進していくことが求められている。

このためには、市民ニーズに的確に対応できる組織づくりと「時代の変化を敏感に察知し、市民の視点に立って考え、新たな課題に挑戦する職員」の育成が重要な課題となっている。

そこで、これまで市役所改革に意欲的に取り組んでこられた4市の市長に、それぞれの取り組みをご講演いただき、本市のさらなる市役所改革の契機とするため開催するもの。

2 対象

原則として係長以上を対象とする。

3 日程

	日時・会場	講師
第1回	10月29日(月) 午後3時30分～午後5時 勤労福祉会館 多目的ホール(約200名)	加西市長 中川 暢三 氏
第2回	11月20日(火) 午後3時30分～午後5時 サンピア明石 フロイデホール(約160名)	三木市長 藪本 吉秀 氏
第3回	1月22日(火) 午後3時30分～午後5時 サンピア明石 フロイデホール(約160名)	生駒市長 山下 真 氏
第4回	2月6日(水) 午前10時～午前11時30分 サンピア明石 フロイデホール(約160名)	芦屋市長 山中 健 氏

*講演開始30分前から、受け付けます。

4 講演次第

- 講演 演題：(講師により演題が異なります) (1時間)
- 質疑応答 数名程度 (20分)
- 挨拶 (10分)

第二弾

明石市役所“カラワリ”大作戦



市民主体のまちづくりを問う！

地方分権改革が進展し、自治体自らが主体的な地域経営を進めていかなければならない時代になっています。また、厳しい財政状況や本格的な少子高齢社会が到来する中、ますます「住民自治」の理念に基づいて市民との「参画と協働」を高め、市民ニーズに基づく施策を着実に推進していくことが求められています。

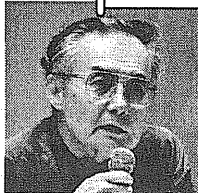
このような状況の下、私たち市職員は、協働のパートナーである市民・NPO・事業者の方たちの考え方を知り、お互いの役割について認識を深める必要があります。

そこで、まちづくりや環境問題、地方自治など多方面で活躍されている講師に、市民主体のまちづくりについてご講演いただき、ワークショップ、市民活動の現場体験実習を実施することにより、さらなる意識改革の契機とします。

☆研修の概要

	日時	場所	対象者	内容
セミナー	9月29日(火) 14:00~16:30	サンピア明石 フロイデホール	全職員 100名	「地方分権時代の市民と自治体」 講師:市民まちづくり研究所所長 松本 誠 氏
ワークショップ	10月27日(火) 13:30~16:30	市民会館 第1・第2 会議室	セミナー参加者から 50名	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教グループに分かれて、チューター（市民活動団体の中心メンバー）と職員による意見交換 </div> ①オリエンテーション 20~30分 ②分散会 90分 ③全体会 60分（グループ報告=職員 講師のまとめ） ファシリテーター：松本 誠 氏
市民活動の現場体験実習	11月~12月	各活動団体	ワークショップ参加者 50名	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 市民活動団体での現場体験〔1日間〕 </div> 団体の例会や講座への出席、団体のサービス事業へのスタッフとしての参加等の現場体験。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> アンケート（感想文）を人材開発課へ提出 </div>				
報告会	12月~1月	市民会館 会議室	50名	発表と、松本 誠 氏からの講評。

講師



市民まちづくり研究所
所長 松本 誠 氏

元神戸新聞社編集局調査研究資料室長。同社退社後、2003年2月に明石

市に市民まちづくり研究所を設立。

現在、関西学院大学、神戸学院大学、桃山学院大学等の各非常勤講師として、ジャーナリズム論や政治学、まちづくり学、都市政策などを講義。

武庫川流域委員会委員長、明石まちづくり市民塾代表、CODE 海外災害援助市民センター理事、

お問い合わせ先

人材開発課 梁瀬・勝見
電話：918-5818 内線：7446(7301-2111)
E-Mail: jinzai-kaihatsu@city.akashi.hyogo.jp



二市(町田市・相模原市)合同研修
地域力活性化研修

「地域資源を活かして人を集めよう！ ～地域ブランド～」

平成 14 年から町田市・相模原市では、都市間交流の推進と職員同士の相互刺激による意識改革等を目的に二市合同研修を実施しています。

今年度のテーマは「地域ブランド」です。

近年、環境や文化を活かしつつ地域社会の発展を意識した活動が注目されています。

今回の研修では、豊かな自然と文化・産業を踏まえ、既存の資源を活かしつつ、地域の環境・文化を観光資源と捉え、観光資源をプロデュースするスキルを学びます。

日 時	2009 年 6 月 2 日・3 日 (2 日間) (午前 9:00～午後 5:00)
会 場	町田市文学館 会議室 (町田市中町 1-20-23)
講 師	流通科学大学 教授 高橋一夫 氏
申込先	5 月 21 日までに職員研修室へ直接お申込ください。 お申し込み後、希望のテーマを伺います。 (内線 2263)

予定する研修テーマ

- ① フットパスをプロデュース
- ② 名産品をプロデュース
- ③ スポーツでプロデュース

※研修テーマは変更になる可能性があります。

※同じ研修テーマを選択した人でグループを作り、演習を行います。

※「フットパス」とは…イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い街並みなど、地域に昔からあるあるのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち【Path】)”のこと。



平成 21 年度 二市(町田市・相模原市)合同研修実施要領

特別研修「地域力活性化研修 地域資源を活かして人を集めよう！～地域ブランド～」

1 趣 旨

都市間交流を推進するための職員交流の一環として、町田市と相模原市との合同研修を実施します。

本研修講座は、異なった行政環境や職場風土を背景に、相互刺激によって視野を広げ、新鮮な発想を引き出し、研修生の意識改革や自己啓発意欲の向上に役立てるとともに政策課題解決のためのスキルを講義・グループ討議を重ねながら修得し政策形成能力を養うことを目的とします。

2 研修のねらい

地方分権の推進に伴い地域にあった政策の構築と実施及び政策運営が求められています。本研修では、豊かな自然と地域固有の文化を有する二市の現状を踏まえ、既存の資源を活かしつつ、様々な地域資源を観光として捉えることで、地域ブランド力を高め、来街者を確保する観光戦略スキルを身につけることをねらいとします。

3 実施日時

平成 21 年 6 月 2 日 (火) ～ 3 日 (水) 午前 9 時～午後 5 時

4 会 場

町田市文学館 会議室 (町田市原町田 4 丁目 16 番 17 号)
※町田市立中央図書館から徒歩 3 分

5 対象者

主事・主任・主査級の職員 20 名程度

6 講 師

町田市地域活性化懇談会専門委員 高橋 一夫 氏

□神戸流通科学大学サービス産業学部教授

■専門：ブランド論、観光マーケティング論、観光事業論、観光まちづくり計画、着地主導のニューツーリズムの実践研究、地域ブランド構築のあり方


■著書：「観光事業論」「観光文化論」(ミネルバ書房・共著)等

7 研修内容 (予定)

	9:00	12:00	13:00	17:00
1 日 目	6/2	地域ブランドとは 情報交換 (講義・グループ演習)		現場の人達へのインタビュー等 (3グループ程度に分かれて) ・フットパス・名産品・スポーツ
2 日 目	6/3	まとめ PR方法 (グループ演習)		まとめ・発表 (グループ演習・講義)

講座名	チーム力強化講座 《新規》		受講定員	各40人
内 容	<p>目標達成や高い成果を得るためには、職員一人ひとりの能力発揮はもとより、グループや係、プロジェクトチームなどでのチームワークが重要である。</p> <p>この講座は、自治体を取り巻く環境変化に対応し、困難化する行政課題に立ち向かうため、チームリーダーの基本やチームマネジメントを学び、チームづくりやチーム力を押し上げていくためのスキルを習得する。</p> <p>また、チームの構成メンバーが、チームワークに求められる行動や役割についても学ぶ。</p>			
期 日	<p>(東部①) 平成21年 7月28日(火) 9:00~16:30</p> <p>(東部②) 平成21年10月 1日(木) 9:00~16:30</p> <p>(西 部) 平成21年 9月30日(水) 9:00~16:30</p>			
会 場	<p>(東 部) 自治研修所(松江市内中原町 255-1 TEL 0852-22-5858)</p> <p>(西 部) 浜田教育センター(浜田市長沢町 1550-1 TEL 0855-23-6795)</p>			
講 師	<p>(社)日本経営協会 講師 本間 直人</p> <p>1962年生まれ。防衛大学理工学部応用物理学専攻(航空要員)卒。九州工業大学大学院博士後期課程単位取得退学。情報工学修士。NPO 法人国際ファシリテーション協会理事、NPO 法人学習学協会理事・主席研究員。</p> <p>コミュニケーション、ファシリテーション、コーチング、創造的問題解決支援講座など、研修講師として活動中。講師のWebサイト http://www.homma.com</p>			
対 象	全職員 ((県) 主幹選択・企画員選択、(市町村) 係長選択)			
	午 前	午 後		
日 程	<p>○オリエンテーション</p> <p>○プレイング・リーダー・シップとは?</p> <p>○チームビルディング(チームづくり) レゴブロックを使った体験学習</p>	<p>○自分のコミュニケーションスタイルを見直す</p> <p>○目標の共有化と手段</p> <p>○まとめ</p>		
	〔平成21年度新規〕			
備 考				

市民の声が の 集められる！ 新手法



市民参加・協働の形は、行政が条例や計画を決めて市民から意見を聞き取る形式から、市民と行政がともに進める協働型へと変わってきています。

これまで発言することのなかった市民だって、それぞれ思いはあるはず・・・

今回の1 DAYセミナーでは、新しい市民参加の手法“プラーヌクスツェレ（市民討議会）”の特徴と有効性について実施事例を交えてお話しいただき、市民がつくるまちについて考えます。

ところで、プラーヌクスツェレ（市民討議会）とは・・・

住民基本台帳から無作為に抽出された市民が、有償で一定期間参加して、小グループでの討議を重ね、意見形成し、公共的課題に提言する市民参加の手法です。

幅広い市民の方々に参加してもらうことにより、多様な声をきくことができ、また継続的な市政への参加のきっかけとしてもらうことができます。

■対象者 受講を希望される方であればどなたでも結構ですが、ぜひ次の方に受講いただきたいです

★ こんな方にオススメ ★

- * ○○○計画を策定することになったが、市民はどのように思っているのだろうと悩んでいる方
- * ○○○問題の解決について、市民の意見を聞かせてほしいと思われている方
- * 本当の意味での市民参加・協働をめざしたいと思われている方

■募集人数 30名

■受講負担金 無料

■お申込みは 12月18日（金）までに研修担当課を通じてお申し込みください

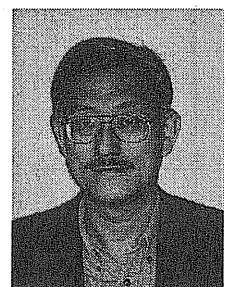
■連絡先 滋賀県市町村職員研修センター

TEL 077-527-5270 FAX 077-527-5271 E-mail info@hiyaku.or.jp

講師：別府大学文学部教授 しのとうあきのり
篠藤明德さん

～プロフィール～

1954年別府生まれ 東京大学文学部西洋史学科卒業後、ドイツに渡り、16年間生活
現在、別府大学文学部教授 また、日本プラーヌクスツェレ研究会代表を務める
著書に「まちづくりと新しい市民参加」、「自治を拓く市民討議会」（イマジン出版）



日 時：平成22年1月13日（水） 13時30分から16時30分

会 場：会場 滋賀県市町村職員研修所（大津市におの浜1丁目1番20号 ピアザ淡海4階）

平成 21 年度市民自治推進研修（コーチング編）実施要領

1 研修名

平成 21 年度市民自治推進研修（コーチング編）

2 研修のねらい

市民との対話や、職員同士が職場のビジョンや目的を共有していくために必要なコーチングのポイントを学び、市政推進に活かすとともに職場の活力を高める。

3 研修の実施方法

多くの職員が参加しやすいように、職場に出向いて実施する。

具体的な研修内容・実施時期・対象者等については、希望する局区と自治研修センター及び研修講師が協議し、当該局区との共同実施とする。

4 基本的な研修内容

- (1) コーチングとは
- (2) コーチングの基本スキル
- (3) 市民対話や職場活性化に活かすコーチング

※基本的スキルの習得に重点をおいた「基本編」と、質問スキルのステップアップを目指す「向上編」の 2 コースを設ける。ただし、「向上編」は各種コーチング研修の既受講者を対象とする。

※ 2 コースともカリキュラムに演習を含む。

	自治研修センター実施局区との業務分担	研修センター	実施局区
実施前	講師との連絡調整 (研修の内容・日程調整)	○	
	実施日程・会場の確保		○
	受講者募集・選定		○
当日	会場設営		○
	配布資料	○	
後日	アンケート集計	○	

5 対象者

実施局区の課長職・係長職・一般職（希望する実施局区が選定する。）

6 研修会場

実施局区の会議室等

7 対象局区数等

7 局区

1 局区につき 3 時間の研修を 2 セット開催を基本とする。1 セットにつき 30 名程度の受講を見込むが、実施時間・1 局区あたりの開催セット数や 1 セットあたりの実施規模（受講者数、会場規模等）の詳細については別途調整により定める。

8 実施時期

以下の日程のうち、実施する局区が希望する日。

平成 21 年 6 月 16 日・17 日 7 月 13 日・14 日・15 日
 8 月 19 日・20 日・21 日 9 月 25 日
 10 月 14 日・15 日 11 月 4 日・5 日・10 日
 12 月 8 日・9 日・10 日

9 講師

コーチングを専門とする外部講師

平成 21 年度市民自治推進研修（プレゼンテーション編）実施要領

1 研修名

平成 21 年度市民自治推進研修（プレゼンテーション編）

2 研修のねらい

市民に対して分かりやすく情報提供を行なうために説明力向上に必要なコミュニケーション能力を養う。

3 研修の実施方法

多くの職員が参加しやすいように、職場に出向いて実施する。

具体的な研修内容・実施時期・対象者等については、希望する局区と自治研修センター及び研修講師が協議し、当該局区との共同実施とする。

4 基本的な研修内容

説明力向上のためのプレゼンテーションの基礎を学ぶ。以下の 2 コースを設ける。

【基本編】（基本スキルの習得重視）

(1) プレゼンテーションの構成・技法

(2) 相手に伝えていくための表現方法

【向上編】（説得型プレゼンの基本）

(1) プレゼンテーションの構成・技法
（復習）

(2) 説得型プレゼンテーションの基本

※2コースともカリキュラムには演習を含む。

	自治研修センター実施局区との業務分担	研修センター	実施局区
実施前	講師との連絡調整 (研修の内容・日程調整)	○	
	実施日程・会場の確保		○
	受講者募集・選定		○
当日	会場設営		○
	配布資料	○	
後日	アンケート集計	○	

5 対象者

実施局区の課長職・係長職・一般職
(希望する実施局区が選定する。)

6 研修会場

実施局区の会議室等

7 対象局区数等

7 局区

1 局区につき 3 時間の研修を 2 セット開催を基本とする。1 セットにつき 30 名程度の受講を見込むが、実施時間・1 局区あたりの開催セット数や 1 セットあたりの実施規模（受講者数、会場規模等）の詳細については別途調整により定める。

8 実施時期

以下の日程のうち、実施する局区が希望する日。

平成 21 年 6 月 12 日・19 日・26 日 7 月 3 日・24 日・31 日

9 月 14 日 10 月 6 日・20 日・27 日

9 講師

プレゼンテーションを主とするコミュニケーション能力の向上に関する指導を専門とする外部講師

平成 2 1 年度市民自治推進研修（市民対応編）実施要領

1 研修名

平成 2 1 年度市民自治推進研修（市民対応編）

2 研修のねらい

市民が期待するサービスとは何かという観点から、接遇技術を考えるとともに、クレームを C S（customer satisfaction：顧客満足度）につなげていく組織風土づくりを目指す。

3 研修の実施方法

多くの職員が参加しやすいように、職場に出向いて実施する。

具体的な研修内容・実施時期・対象者等については、希望する局区と自治研修センター及び研修講師が協議し、当該局区との共同実施とする。

4 基本的な研修内容

(1) 接遇の基本（復習）

(2) クレームについての考え方及び対応

※ (1) に重点を置く市民対応スキル編と、
(2) (3) に重点を置くクレーム対応スキル編の 2 コースを設ける。

※ 2 コースともカリキュラムには演習を含む。

5 対象者

実施局区の課長職・係長職・一般職
(希望する実施局区が選定する。)

6 研修会場

実施局区の会議室等

7 対象局区数等

7 局区

1 局区につき 3 時間の研修を 2 セット開催を基本とする。1 セットにつき 3 0 名程度の受講を見込むが、実施時間・1 局区あたりの開催セット数や 1 セットあたりの実施規模（受講者数、会場規模等）の詳細については別途調整により定める。

8 実施時期

以下の日程のうち、実施する局区が希望する日。

平成 2 1 年 6 月 2 3 日・2 4 日・3 0 日 7 月 7 日・8 日
8 月 5 日・6 日・2 6 日
9 月 2 日・9 日・1 0 日・1 6 日・3 0 日
1 0 月 8 日・9 日・2 3 日・3 0 日
1 1 月 1 2 日・1 8 日・1 9 日

9 講師

接遇マナー・クレーム対応スキルの向上に関する指導を専門とする外部講師

	自治研修センター実施局区との業務分担	研修センター	実施局区
実施前	講師との連絡調整 (研修の内容・日程調整)	○	
	実施日程・会場の確保		○
	受講者募集・選定		○
当日	会場設営		○
	配布資料	○	
後日	アンケート集計	○	

大好評につき、クラス増設！！ 今回、課長級以上を対象としたクラスも新設
1年で成果が出る協働の極意を学ぶ

まちづくりワークショップ実践

「まちづくり」や「市民との協働」を進めるこれからの行政職員の必須スキル！

今、話題のファシリテーションをもちいた合意形成型会議。「まちづくり」や「協働」を進める会議として注目を集めています。今回は、月間ガバナンスでも特集され、各方面から高い評価を受けている“楽しい会議を活用したまちづくり”で実績のある釘山氏を講師としてお招きし、実際に体験しながら学ぶ研修です。

楽しくなければ会議でない！
協働のコツは楽しくやること！

【プログラム】

<午前>身の丈の「協働」とは何だろう？

- ・ファシリテーションを用いたまちづくりの事例紹介
- ・参加型講義 など

<午後>参加者のやる気を引き出すファシリテーション・ファシリテーターとは？

- ・理想の会議を体験
- ・全員発言させる7つの方法
- ・時間を守らせる2つの極意
- ・しゃべりまくる人の対策 など

■まちづくりワークショップの基本知識を学び、「参加した人がまちづくりに主体的に取り組むようになること」を目指したワークショップを体感できます！

■前回の受講生の声(9割を超える受講生が、「今後大変役に立つ」「役に立つ」と回答！！)

NPOの特性が「〇〇」とは全く思っていなかったのだから目からウロコでした！

今までの考え方が全く違いビックリしたが、非常に勉強になった

…この様な「あっ」と思わせる発想が人の心を動かすのだと感じた

【身の丈の協働】必見！

午前中の「協働」の研修も、今までの協働の研修にはなかった視点が満載。「協働とは何か？」を学ぶのではなく、「協働を成功させるコツ」を実践報告をもとに学んでいきます。

【申し込み】

受講を希望される場合は、人材開発責任者(部長級職員)の推薦書に必要事項を記入のうえ、各局区室研修担当課にご提出ください。

講師 PROFILE



会議ファシリテーター普及協会(MFA) 代表

釘山健一

学習方法の開発に情熱を燃やし続けた熱血教師時代。ベンチャー企業の営業部長として猛烈に働いたサラリーマン時代。その後、環境NPOのスタッフとして数多くの「協働事業」に関わり、2005年には「愛・地球博」におけるEXPOエコマネー事業の事務局長となる。この3つのキャリアの中で培ってきた会議の仕方について独自のノウハウを確立し、2006年4月「会議ファシリテーター普及協会(MFA)」を立ち上げる。静岡県牧之原市での取り組みは、昨年度「第3回 manifests 大賞市民部門 manifests 推進賞審査委員会特別賞」を受賞。今年8月の月間ガバナンスでも特集された。

【著書】 ・「もっとすごい！非常識な会議」(ソフトバンククリエイティブ)
・「会議ファシリテーションの基本がイチから身につく本」(ずばる舎)

【講座実績】 中部電力 静岡銀行 リンナイ 岐阜県庁 豊田市 岡崎市 静岡市 牧之原市 豊橋市 半田市 掛川市 岡山県 名城大学 岐阜経済大学 浜松学院大学
あいち国際交流協会 あいち男女共同参画財団 ほかに多数 年間100本以上

～即実践できる具体的なスキルが満載！！～

■日・対象

クラス1	12月21日(月)	} 対象: 入庁3年目以上
クラス2	12月22日(火)	
クラス3	12月24日(木)	— 対象: 課長級以上

■時間 8時45分～17時15分

■場所 中土木事務所研修室

■定員 各クラス30名